

平成二十七年七月二十七日（月）晴

今日五日「明治日本の産業革命遺産」二十三件ユネスコの世界文化遺産への登録決定す。但しこれら資産の一部に朝鮮半島より強制労働動員ありとする韓国の強硬なる反対あり、漸く六月二十一日韓国外相来日し岸田外相との會談にて登録への協力合意に達するも、ドイツのボンに於ける世界遺産委員會にて審議延期となり、水面下の交渉を経て妥協成立、翌日登録に至ると云々。「水面下」の合意内容は知る由もなきが、早くも「forced to work」などの文言取沙汰せられ、將來の禍根とならざるを念ずるのみ。

「遺産」なる語、嘗ては「凡ゆる科學的業績は先人の遺産の上に成立す」と教へらる。世阿彌は「家家にあらず、次ぐを以て家とす」と先祖の偉業への畏敬と傳承の重要性を説けり。然るに近年「生るゝ時も死ぬる時も裸一貫なり」と祖先、子孫を顧みざる觀念横行す。これその「産」の字を「財産」とのみ解し、相續税重課の根據たらしめむとの意圖なるらむも、かゝる不遜の言我が民族を害すること大なるを憂ふ。人この國に生を享くれば皆の祝福を受けて産湯使ふを一見するのみにても、祖先傳來の文化に浴するの仕合せを感じるにあらずや。これを「裸一貫」の一語にて捨象せば、無意識の裡に我に國なし、親なしと感ずべし。

文語の「遺産」に就きても同様の問題あり。その内容は漢字の傳來以來一千五百年に亙る書き言葉進化の歴史に育まれたる表現の多様性にして、その成果としての典籍なり。然るに「産」を單に文語による著作物に限らば、その現代語譯完備せば足るとなるらむ。現に現代文と文語文の峻別は特に強調せられ、既に前の大戦中昭和十七年には小學唱歌「春の小川」の歌詞「やうやう流る」を「やうやう行くよ」と改めにけるを始めとして、昭和二十七年戦後獨立恢復の目前、「公用文作成の要領」にて微に入り細を穿つ文語表現排除を半ば法制化する。これ文語の遺産繼承を抛棄せるものにして、上述の裸一貫に等し。しかもかれは「裸一貫」とは言ひ條、十分に傳承文化の恩恵に浴して育ててむに、これは文語文化より完全に隔離せられ、その養分枯渇して、「話すやうに書く」のみの口語體、免角直譯、カタカナ語幅を利かすに至る。

一例を擧ぐるに「TPP」あり。その要は關税のみならず、知的財産權など貿易に於ける凡ゆる問題に就き、各國が其の得意とする分野に於ける恆久的優位性を獲得せむとする協定なるを strategic の語により表現す。今後日本の戦略的分野は、自動車なりや、米なりや。或いは情報通信などの新技術か、當局による戦略的決斷は極秘を要すと雖も、其の正鵠を射るを助くるの言論少し。TPPの正式譯語は「環太平洋戦略的經濟連繫協定」なり。然れどもこれ英語の正式呼稱の單なる直譯にて、特に strategic の頭文字 S は略稱にもなく、且つ「戦略的」の譯語動もすれば省略せらる。かくして一般常識人は内容を全くえ想像、想起せず。これ現代口語體の致命的缺陷にあらずや。